

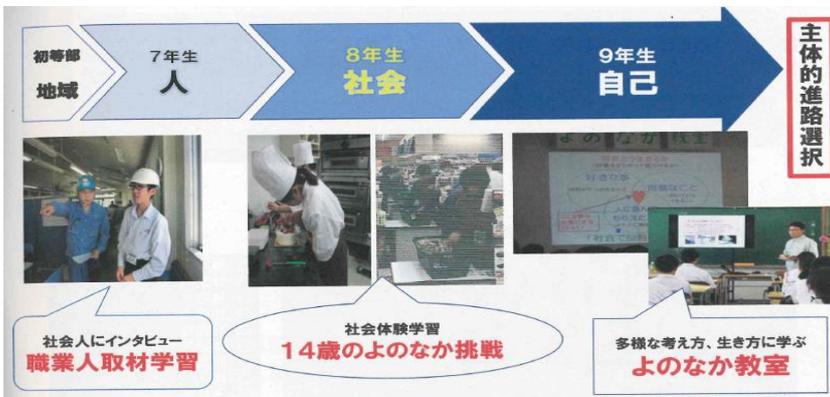


「第 1 1 回キャリア教育文部科学大臣表彰」受賞！

子供・若者の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実には、学校等の教育関係者と地域社会や産業界の関係者が連携・協働し、互いにそれぞれの役割を認識しながら、一体となって取組を進めることが重要です。文部科学省・経済産業省及び厚生労働省では、3省合同で「キャリア教育推進連携シンポジウム」を開催し、地域社会、産業界が一体となって、キャリア教育を推進していかうとする気運を高め、キャリア教育の意義の普及・啓発と推進に資することを目指しています。**本年度は、日向市立大王谷学園、県立都城西高等学校が文部科学大臣表彰を受賞しました。**また、大王谷学園は全国の受賞校代表として事例発表を行い、その先駆的取組を全国にアピールしました。

学校の部 日向市立大王谷学園（大王谷小・中学校）

大王谷学園では、「一人前の社会人・職業人」「一人前の地域人」「一人前の家庭人」を育てることを目指し、小学校1年生から中学校3年生までの9年間で系統性・一貫性・継続性のあるキャリア教育に取り組んでいる。特に、本年度から日向市キャリア教育支援センターと連携して再構築している職場体験（「14歳のよのなか挑戦」）では、これまでイベント化しがちであった職場体験学習を本来的な働く目的や意義を理解できる内容へとブラッシュアップし、地域と一体となった取組が展開されている。



学校の部 宮崎県立都城西高等学校

都城西高校では、生徒の進路志望や生活環境などの多様性に対応するため、生徒が進路目標を考えるための土台となり、どのような仕事に就いた場合でも必要となる「汎用的な力」を育むため、キャリア教育の推進と充実に取り組んでいる。探究的活動「フロンティア学」、都城市福祉ボランティア「幸子ボランティア」、校内放送ボランティア「ピカピカの輝き みんなの手で」、生き生きインターンシップ「都西手伝い隊」の取組など、生徒が主体的に参画する場面を数多く実現させている。



小林近未来ハイスクールが初開催されました！

2月10日(土)、小林市内の中学2年生(40名)、高校2年生(50名)が、若手社会人と協働するワークショップ「近未来ハイスクール」が、小林市中央公民館で開催されました。**90名の中高生と、16名の地域で働く大人の方々が『宮崎で働く、宮崎で暮らすこと』の魅力や充実感、苦労等について熱く語り合い、**地元の就労情報があまり入ってこない生徒達にとって、進路選択について新たな視点が加わることになりました。



(1) 自分の“未来像”や“就労イメージ”を黄色色の付箋紙に記入し、意見交換し合う。

中・高校生は、自分の“未来像”や“就労イメージ”について、漠然とした抽象的な発表が多かったのに対し、働く大人の方々は、生活の細部に至るまでかなり具体的な内容になっているのが印象的でした。

発表する高校生



発表する働く大人の方



(2) 改めて自分の“未来像”や“就労イメージ”をピンク色の付箋紙に記入し、意見交換し合う。

2回のワークショップを通じた学びについて、グループ間の意見をシェアリングしました。



担当者の眼



新学習指導要領には、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が明記された。小林市キャリア教育支援センターが開催した本取組は、学校教育と社会教育とがタッグを組んだ『社会との連携・協働』としてのモデル的な取組である。中学生や高校生が、働く大人の方々から学校外で学ぶという企画であり、インプット型の講演・講話はなく双方向でアウトプットし合う協働型の『よのなか教室』であった。こうした形でのキャリア教育も、今後ぜひ県内に広げていきたい。

教育支援課 教育支援担当

講評を行う

中屋敷 史生 小林市教育長

